

広領域連携型基幹研究プロジェクト  
「アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開」基本計画

平成28年3月28日

人間文化研究機構

一部改定 平成29年4月 1日

1 広領域連携型基幹研究プロジェクト「アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開」の推進

主導機関名 総合地球環境学研究所

統括代表者 ハイン マレー・教授

【研究概要】

本プロジェクトは、急速に変容する社会と環境の変化の進む近現代において、「人の健康」を日常の健全なる暮らしや生態環境、生業、食生活との関わりの中で模索する「エコヘルス」の概念を、人文学の視点から再構築する。さらに急速な社会的変容と環境変化の生じているアジア地域（環太平洋、環インド洋）を対象に、その歴史・文化をふまえ、具体的な事例に即して考察する。

本プロジェクトは、人間と自然の関係を考えるうえで、疾病というネガティブな「健康」研究から脱却し、ポジティブな側面から、健康と well-being を基本的な指標として取り上げ、歴史的視点と地域に根ざした学際的「健康」研究に取り組む。具体的に、以下となる：①地球研と民博は、それぞれ人間－環境相互作用環の健康と食生活の側面から、各対象地域の現状にたどりついた過程、すなわち地域生態史を解明する；②地球研と国文研は、健康概念をめぐって、アジアの医学書、歴史書から「健康」に関する資料を整理・分析し、従来のアジア的「健康」の考え方を明らかにする；③民博、国文研及び地球研は、アジアの農書・食事記録などを中心に、対象地域の食生活史を再構成する；④上記を踏まえて、地球研と民博、現地の協力機関及び対象コミュニティと連携して、PDCA の作業サイクルで健康教育・食育などを中心に、「健康」コミュニティの構築及びエコヘルスの実験講座を実施する；⑤上記④の成果を踏まえて、3機関及び協力研究機関は共同でアジアのエコヘルスに関する教科書及び教育・研究ネットワークを創成する。

2 「アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開」は、以下の研究ユニットから構成される。各研究ユニットのテーマおよび、研究概要は次のとおりである。

①「アジアにおける健康と環境：新たな人間と環境との関係性としての「エコヘルス」概念の再構築に向けて」

機関名 総合地球環境学研究所

代表者 ハイン マレー・教授

### 【研究概要】

本研究は、急速に変容する社会と環境の変化の進む現代において、「人の健康」を日常の健全なる暮らしや生態環境、生業との関わりの中で模索する「エコヘルス」の概念の人文学の視点からの再構築を行う。さらに急速な社会的変容と環境変化の起きているアジア地域（環太平洋、環インド洋）で、その歴史・文化をふまえ、具体的な事例に即して考察する。

### ② 「アジアの中の日本古典籍－医学・理学・農学書を中心として－」

機関名 国文学研究資料館

代表者 入口 敦志・教授

### 【研究概要】

日本古典籍の重要な分野であり、しかも現代の社会生活にも密接な関係をもつ医学・理学・農学書に焦点を合わせ、中国・韓国・琉球・ベトナムなどの書物文化と比較しながら、その成立・流通・享受などの過程におけるさまざまな問題を考察し、内容と形態の両方から日本の医学・理学・農学書の特徴について再検討を行う。

### ③ 「文明社会における食の布置」

機関名 国立民族学博物館

代表者 野林 厚志・教授

### 【研究概要】

食の概念と体系的な実践を、文明社会を支える文化装置としてとらえ、その文化的機能や社会的動態を解明し、食をめぐる社会的共存や衝突の原理を探求する。同時に、日本の文化人類学における当該分野の研究を強化し、研究成果の国際的な発信を推進する。

## 3 研究成果の公開・可視化

### (1) 報告書・成果論集、シンポジウム、データベース等

#### ① 報告書・成果論集

**機関連携：**1) 中間報告書を刊行（平成 30 年度）

2) 『アジアのエコヘルス』（仮）教科書作成、出版（平成 33 年度）

3) 最終報告書（平成 33 年度）

**地球研：**1) 『歴史から見たアジアの「健康」概念』（仮）論集を刊行（平成 29 年度前後）

2) 各対象地の研究調査の成果の学術論文を執筆・投稿（平成 29 年度以降）

3) 『エコヘルス研究の方法』（仮）論集を刊行（平成 32 年度前後）

**国文研：**1) 「アジアの医学・農学・理学書と健康」を中心テーマとし、論文執筆・発表

(平成 30 年度前後～)

- 2) 「書物文化からみたアジアの医学・農学・理学書と健康」を中心テーマとし、ブックレット及び論集を執筆・編集及び学术论文の投稿(平成 32 年度～)

- 民博** : 1) 「アジアの食と健康」をテーマに、学术论文の執筆(平成 30 年度前後～)  
2) 論集の編集計画及び執筆作業を行う(平成 32 年度前後～)

## ②シンポジウム・予稿集

- 機関連携** : 1) 中間成果を踏まえ、各対象地研究協力機関の代表者が参加する国際シンポジウムを開催し、アジアエコヘルズ研究・教育ネットワークの創成について議論を行う。(平成 30 年度)

- 2) 国際エコヘルズ学会アジア大会開催の機に、各国の研究協力機関の研究者が参加する「アジアのエコヘルズ」の国際シンポジウムを開催し、アジアエコヘルズ研究・教育ネットワークを創立する。(平成 33 年度)

- 地球研** : 1) 順次に各調査対象地(ラオス、フィリピン、インド、中国、日本長崎など)にて、協力機関・利益関係者が参加する国際/国内シンポジウムを企画し、エコヘルズ・コミュニティの構築について議論する。(平成 30 年度～)

- 2) 国際エコヘルズ学会に「アジアのエコヘルズ」のセッションを企画・主催する。(平成 32 年度)

- 3) 国際エコヘルズ学会・アジア大会を企画・主催する。(平成 33 年度)

- 国文研** : 1) アジアの医学・理学・農学書—その成立および相互の影響」国際シンポジウムを開催する。(平成 29 年度)

- 2) 「アジアの医学・理学・農学書—その流通・享受の状況」国際シンポジウムを開催する。(平成 31 年度)

- 3) 「日本の医学・理学・農学書の特徴:アジアの書物文化から見た日本古典籍」国際シンポジウムを開催する。(平成 32 年度)

- 民博** : 1) 「アジアの食文化と健康」をテーマに、一般公開講演会を開催する。(平成 28 年度)

- 2) 国内学会(文化人類学会等)の分科会を主催する。(平成 29 年度)

- 3) 国際学会(国際人類学民族連合大会等)で成果を公開する。(平成 30 年度)

- 4) 民博で国際シンポジウムを実施する。(平成 31 年度)

- 5) 一般公開講演会を実施する。(平成 32 年度)

- 6) プロジェクト全体の国際シンポジウムを地球研、国文研と共同で実施する。(平成 33 年度)

## ③データベース

研究成果のデータベース化は、主導機関の地球研を中心として、3機関が連携して、主に

以下のデータベースを設計・構築し、国内外の大学・研究機関への公開を目指す。

- 1) 各対象地自然と環境変化の現状と変化過程の把握（地域生態史）：生活生態系基本データ、住民の健康状況、地域健康と生業転換／変化のプロセス、人口推移、各地食物の種目及び変化のプロセス、栄養摂取の現状及びその歴史変化；地域健康問題の変化（疾病の歴史を含む）
- 2) アジア健康に関する医学書、農学書、理学書目録の整理
- 3) アジア食文化分布地図及び解析・検索システム

#### ④その他

プロジェクト実施期間中に、毎年度に3回程度、プロジェクト進捗状況及び研究成果を報告するためのニューズレターを発行

#### (2) 教育プログラム等

本プロジェクトの最も重要な目標の一つは、発展途上国・先進国といった枠組みを超え、感染症・生活習慣病・少子高齢化に関する医療制度・福祉制度再構築に向けて、根源からアジアにおける「健康」の概念を見直し・再構築することである。これらの成果を踏まえつつ、アジア各関係大学及び研究機関とともに、各対象地域で参加型研究及びエコヘルス実験講座を行うことで、エコヘルス研究・教育を担える人材の育成に努める。その上に、関係機関の共同作業で、国際的エコヘルス教科書の作成及びエコヘルス研究・教育ネットワークの創立を目指す。また、実験講座ビデオやデータベース化した調査研究成果、文献目録などを、ウェブ上で公開し、研究者及び一般の教育に貢献する。

#### (3) 展示等

3機関が連携して、研究成果を可視化する展示を行う予定である。主に、以下の事業を実施する予定である。

- ①各調査地で実施するエコヘルス実験講座のビデオを iTunes U などのプラットフォームを利用し、研究者・大学生及び一般向けに公開する。
- ②可能なかぎり古典書籍及び資料をデジタル化し、ウェブ上に公開する。
- ③民博のプラットフォームを生かし、「アジアにおける食と健康の文化」をテーマとした企画展示や一般講演などを企画する。
- ④地球研オープンハウスなどのイベントを生かし、一般向けの食育、健康教育を実施する。

#### 4 研究プロセスの国内外に向けた情報発信

本プロジェクトの国内外の連携に関して、特筆すべき特徴は参加型研究である。つまり、プロジェクトメンバーのみならず、国内外の研究者、利益関係者などと協働で研究調査を行い、共同でエコヘルス概念の構築やエコヘルス・コミュニティの実践を行う。その上に、プロジェ

クト実施期間中に、日本あるいは研究対象地域の国にて、国際シンポジウム、実験講座を実施し、情報を発信する。そして、上記の成果を踏まえて、以下のように国際的な情報・成果発信に努める予定である：①国際学会及び雑誌の成果発表、②エコヘルス教科書の和文と英文出版、③国際エコヘルス学会アジア大会の開催など。

#### 5 若手研究者の人材育成の取組み

本プロジェクトの主導機関地球研に、若手の特任研究員を派遣し、その特任研究員及び連携諸機関の若手研究者を中心として、研究実務の運営・企画を担当させる。また、現地の調査・実践・教育は、日本及び現地協力機関若手研究者を中心で企画・実施することで、国際協力経験豊富な若手育成を目指す。そして、エコヘルス教科書の作成、国際シンポジウムの企画及び国際エコヘルス学会アジア大会の運営などにも、積極的に日本及び対象地域の若手研究者を参加させ、高度な研究とマネジメント能力を有する若手研究者の育成に努力する。

#### 6 全体計画（主要活動）

年 度	取 組 内 容
平成 28 年度	<p><b>機関連携：</b>①全体研究会（1回）；②機関間共同作業・交流部会（3回）；③ニューズレター発行（3回）；④プロジェクト共通データベース設計</p> <p><b>地球研：</b>①全体研究集会及び定例研究会；②各対象地域の共同調査及び研究会（民博協働）；③東アジアの健康概念・食生活の歴史研究（国文研協働）；④国際エコヘルス学会での成果発表；⑤データベース設計</p> <p><b>民博：</b>①定例研究会；②東部及び西部アジアにおける基盤調査（地球研協働）；③アジア地域外での比較調査；④一般公開講演会</p> <p><b>国文研：</b>①アジアの医学・理学・農学書の成立および相互の影響に関する文献研究（地球研・民博協働）；②国際ワークショップ開催；③国内外博物館における文献収集；④関係デジタル画像の収集及び公開準備</p>
平成 29 年度	<p><b>機関連携：</b>①全体研究会（1回）；②機関間共同作業・交流部会（3回）；③ニューズレター発行（3回）；④共通データベースの整理</p> <p><b>地球研：</b>①全体研究集会及び定例研究会；②各対象地域の共同調査及び実践（民博協働）；③健康概念・食生活の歴史に関する文献資料整理・分析（国文研協働）；④研究成果のデータベース整理；⑤東アジアの健康概念の歴史像に関する成果出版</p> <p><b>民博：</b>①定例研究会；②東部及び西部アジアにおける基盤調査（地球</p>

	<p>研協働) ; ③アジア地域外での比較調査 ; ④国内学会分科会の実施</p> <p><b>国文研</b> : ①アジアの医学・理学・農学書の成立および相互の影響に関する文献研究及び国際シンポジウム開催 (地球研・民博協働) ; ②国内外博物館における文献収集 ; ③関係デジタル画像の収集及び公開準備 ;</p>
<p>平成 30 年度 (中間自己評価)</p>	<p><b>機関連携</b> : ①全体研究会 (1 回) ; ②機関間共同作業・交流部会 (3 回) ; ③ニューズレター発行 (3 回) ; ④計画共通データベースの整理 ; ⑤三機関連携の国際シンポジウムを開催し、自己中間評価実施</p> <p><b>地球研</b> : ①全体研究集会及び定例研究会 ; ②各対象地域の共同調査及び実践 (民博協働) ; ③健康概念・食生活の歴史に関する文献資料整理・分析 (国文研協働) ④国際エコヘルス学会での成果発表 ; ⑤研究成果のデータベース整理 ;</p> <p><b>民博</b> : ①定例研究会 ; ②東部及び西部アジアにおける基盤調査 (地球研協働) ; ③アジア地域外での比較調査 ; ④国際学会等での成果公開</p> <p><b>国文研</b> : ①アジアの医学・理学・農学書の流通・享受の状況に関する文献研究 (地球研・民博協働) ; ②国際ワークショップ開催 ; ③国内外博物館における文献収集 ; ④関係デジタル画像の収集及び公開準備 ; ⑤中間成果の発表と公開</p>
<p>平成 31 年度</p>	<p><b>機関連携</b> : ①全体研究会 (1 回) ; ②機関間共同作業・交流部会 (3 回) ; ③ニューズレター発行 (3 回) ; ④計画共通データベースの整理 ;</p> <p><b>地球研</b> : ①全体研究集会及び定例研究会 ; ②各対象地域の共同調査及び実践 (民博協働) ; ③健康概念・食生活の歴史に関する文献資料整理・分析 (国文研協働) ; ④研究成果のデータベース整理 ; ⑤各地域でエコヘルス実験講義を実施 ;</p> <p><b>民博</b> : ①定例研究会 ; ②東部及び西部アジアにおける基盤調査 (地球研協働) ; ③アジア地域外での比較調査 ; ④国際シンポジウムの実施</p> <p><b>国文研</b> : ①アジアの医学・理学・農学書の流通・享受の状況に関する文献研究及び国際シンポジウムの実施 (地球研・民博協働) ; ②国内外博物館における文献収集 ; ③関係デジタル画像の収集及び公開準備 ; ④成果論文など刊行</p>
<p>平成 32 年度</p>	<p><b>機関連携</b> : ①全体研究会 (1 回) ; ②機関間共同作業・交流部会 (3 回) ; ③ニューズレター発行 (3 回) ; ④計画共通データベースの整理 ;</p> <p><b>地球研</b> : ①全体研究集会及び定例研究会 ; ②各対象地域の共同調査及び実践 (民博協働) ; ③健康概念・食生活の歴史に関する文献資料整理・分析 (国文研協働) ④研究成果のデータベース整理 ; ⑤各地域で</p>

	<p>エコヘルス講義を実施(民博・国文研協働)；⑥国際エコヘルス学会でのセッション企画；⑦研究成果の執筆編集</p> <p><b>民博：</b>①定例研究会；②東部及び西部アジアにおける基盤調査(地球研協働)；③アジア地域外での比較調査；④一般公開講演会(民博)；⑤成果刊行論集の編集計画</p> <p><b>国文研：</b>①アジアの医学・理学・農学書の特徴に関する文献研究及び国際ワークショップ開催(地球研・民博協働)；②国内外博物館における文献収集；③関係デジタル画像の収集及び公開準備；④「日本の医学・理学・農学書の特徴：アジアの書物文化から見た日本古典籍」国際シンポジウムを開催；⑤研究成果の学会発表、学術雑誌論文発表及びブックレット・論文集の刊行</p>
<p>平成 33 年度 (最終自己評価)</p>	<p><b>機関連携：</b>①国際エコヘルス学会アジア大会開催；②機関間共同作業・交流部会(3回)；③ニューズレター発行(2回)；④計画共通データベースの整理；⑤国際エコヘルス学会アジア大会・「アジアのエコヘルス」に関するセッションを企画；⑥自己最終評価を実施</p> <p><b>地球研：</b>①全体研究集会及び定例研究会；②各対象地域の補足調査及び共同実践(民博協働)；③健康概念・食生活の歴史に関する文献資料整理・分析(国文研協働)；④研究成果のデータベース整理；⑤各地域でエコヘルス講義を実施(民博・国文研協働)；⑥国際エコヘルス学会アジア大会及び国際シンポジウムを開催；⑦研究成果の執筆編集</p> <p><b>民博：</b>①定例研究会；②東部及び西部アジアにおける補足調査(地球研協働)；③アジア地域外での補足調査；④国際シンポジウム(全体で共同)；⑤成果刊行論集の編集；⑥「アジアにおける食と健康の文化」をテーマとした企画展示を実施(地球研、国文研協働) ※</p> <p><b>国文研：</b>①アジアの医学・理学・農学書の特徴に関する文献研究及び国際ワークショップ開催(民博・国文研協働)；②国内外博物館における文献収集・調査；③関係デジタル画像の収集及び公開準備；④「研究成果の学会発表、学術雑誌論文発表及びブックレット・論文集の刊行</p>

※展示活動については、主催共催機関の都合によりスケジュールの変更がある。

## 7 計画、報告及び点検・評価

### (1) 年次計画

広領域連携型基幹研究プロジェクトの主導機関は、各研究ユニットの毎年度の研究及び事業の計画(以下「年次計画」という。)をとりまとめ、推進会議に提出する。推進会議はこれ

を審議し、総合人間文化研究推進センター（以下「推進センター」という。）に提出する。

推進センターは、広領域連携型基幹研究推進評議会（以下「評議会」という。）に年次計画の審議を依頼し、評議会の意見をふまえ、年次計画を決定する。

#### （２）年次報告・点検

主導機関は、各研究ユニットの毎年度の事業実績報告（以下「年次報告」という。）をとりまとめ、推進会議に提出する。推進会議はこれを審議し、推進センターに提出する。

推進センターは、評議会に年次報告に基づく点検（以下「年次点検」という。）を依頼し、評議会が作成した点検・評価報告書を確認し、点検結果を確定する。また、推進センターは、点検の結果必要と認めるとき、改善措置を講ずるよう推進会議に提言する。推進会議は提言を受けたとき、その趣旨に沿って、必要な是正措置を協議決定する。

#### （３）評議会における審議・年次点検

評議会は、推進センターからの依頼を受け、この基本計画及び年次計画を審議するとともに、年次計画に基づく研究及び事業の実績について点検・評価報告書を作成し、推進センターに提出する。また、必要と認めるときは改善措置を講ずるよう、推進センターに助言する。

#### （４）中間評価・最終評価

推進センターは、事業３年次（平成３０年度）及び事業最終年次（平成３３年度）に、当該期間までの実績について評価を実施する。

中間評価、最終評価については、（２）「年次報告・点検」のプロセスと同様に推進センターが実施する。